

令和7年度 山形県立山辺高等学校 学校評価書

| | |
|------|--|
| 教育目標 | かけがえのない人の生命を育む学科の特性を生かし、心身ともにたくましく心優しい思いやりのある生徒を育成する 1 意欲を燃やし、自ら学び自ら考える力を育てる(自ら考え行動する力) 2 人間性を磨き、感謝と思いやりのある心を育てる(人間力の育成) 3 個性を伸ばし、社会に貢献できる態度を育てる(挑戦する力) |
|------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学校運営の重点目標 | 1 確かな学力の定着と向上 2 社会的自立に向けたキャリア教育 3 社会力を高める生徒指導 4 安全・安心な教育環境 5 家庭・地域、関係機関との連携 |
|-----------|---|

| | | | | |
|------|------|--------|---------|-------|
| 自己評価 | A 達成 | B 概ね達成 | C やや不十分 | D 不十分 |
|------|------|--------|---------|-------|

| 重点目標 | 重点目標の内容 | 目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と総括 | 自己評価 | 次年度の課題と対応 | 学校関係者評価 |
|------|---|---|------|--|---|
| 1 | ① 不断の授業改善と観点別評価による指導と評価の一体化の実現 | <ul style="list-style-type: none"> 授業公開の機会を設け、一人1回以上の公開と参観を行う取組みに対し、昨年度より研究授業を多く実施し、参観者は増加した[達成率:教員97%] 観点別評価の質的向上を図る取組みに対し、教科や学科の研究の実施の達成率が78%であった。観点別評価の導入から4年目となり、さらなる評価の質的向上のための研修会等必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> より良い授業づくりをめざして、「指導と評価の一体化」をすすめるために教科会や職員全体で評価や授業改善についての研修会の実施。 | |
| | ② ICTの利活用による魅力ある授業(個別最適な学びと協働的な学び)と探究型学習の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 授業はわかりやすく、わからないところは自分で調べたり他者に質問しやすい雰囲気がある。→専攻科95%生徒92.6%(生徒の主体性を大切に、わかりやすい授業への取り組みを実施している) 自学自習時間の目標割合合計500分→生徒専攻科81.7%・高校34%(進路目標を意識させる取り組みを実施したが学年により偏りがみられた) 生徒が主体的に学習する習慣の確立に向けて何らかの工夫が必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 個々の進路目標の明確化、生徒が主体的に取り組む学習・課題の工夫。 学習時間というより何を学習すればよいのかを明確にするために教科や学科ごとに再確認の必要がある。 ICT利用に満足しない「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実をめざすために、授業における生成AIの活用やICTの利活用の深化をめざす。 | |
| | ③ 学力の基盤と豊かな心を育む読書活動の実現と教育活動での図書館活用の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中でも共有ドライブを活かした話し合いのまとめや発表を行った。継続的に授業でのICT機器の活用及び連絡等でのGoogleClassroomの活用を行っている[達成率:教員94%] 臨地実習においても病院と校内をつなぎ、情報共有するなど、効果的な活用ができています。 学年、生徒課、MH委員会、SC等との連携やケース会議の実施。 後期テスト1までの長欠者を除いた出席率は高校ではどの学年もほぼ97%以上であり、専攻科も99%以上を達成している。 授業への遅刻や欠席のない規則正しい生活を送っている→専攻科96.7%高校85% | B | <ul style="list-style-type: none"> 学年と養護教諭とが連携し、面談やSC等を早めの対応を取っていく。 進路指導と合わせて面談等を行い、生徒の状況を把握するとともに生徒への早期の対応を行う。 豊かな心を育むための一人ひとりの読書の質と量を向上するために学年や学校全体で読書会の実施に取り組む。 | |
| 2 | ④ 自己理解を深め、生きる力を育み高めるキャリア教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> LHR活動で「高校生の進路ノート」「進路学習ノート」(インターンシップやボランティア活動のまとめ等)を活用し、より一層自己理解等を深める事ができた。 教員生徒ともに積極的に学校説明会やオープンキャンパス、企業見学会に参加し、情報収集と共有に努めた。 「1・2年生進路ガイダンス」や「先輩と語る会」、「やまがたのスペシャリストに聞くトップセミナー」等の講演を聞き、キャリアプラン作成の参考となるよう取組んでいる。(学校の進路指導が役に立っている→達成率:専攻科98.4%高校88.7%) | A | <ul style="list-style-type: none"> 来年度も自己理解を深めるため「高校生の進路ノート」や「進路学習ノート」を利用して充実したキャリア教育をすすめる。 生徒の面接指導や志望理由書の指導で生成AIを活用するなど、様々な観点からアドバイスできるよう引き続き研究をすすめる。 就職関係者を活用し、情報を提供しながら就職・進学支援を行っていく。(専) | 魅力化事業に力を入れているので、このことをしっかりと広めて、生徒の受験者を増やしたい。 現場の看護師不足が続いているので、中学校に看護の生徒が向いてみるような活動してもらいたい。 |
| | ⑤ 専門的な学びと資格取得を強みとする進路指導体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 指導担当者、進路課、学科、保護者との連絡を密にし、進路希望達成のための指導の実施(第一志望の進路先への100%内定を目指す→内定率専攻科94%高校100%) ガイダンスや講演会等、タイムリーに実施する事ができ、生徒に進路を考えるきっかけを与えることができ3学年の就職・進学については全員1回目の受験で合格することができた。 専門教科の深化を図り、調理師免許取得、介護福祉士・看護師国家試験合格率100%を目指す(自分の目指す資格取得に向けて指導・支援を受けている→達成率:専攻科100%高校97.4%) | A | <ul style="list-style-type: none"> 実習での学びと合わせて出前授業や校外研修などを通して、日常の授業の学びにつなげ、進路に生かしていくよう指導する。 生徒の状況や時期を考えながら、講演会等の内容や方法を検討していく。 面談等を行いながら進路意識を醸成していく。また、教員も積極的に情報収集し、有効な情報を生徒や保護者に提供できるようにする。 | |
| | ⑥ 地域課題の理解に基づく地域への貢献意識の涵養 | <ul style="list-style-type: none"> 食料は「単身高齢者弁当づくり」や「高校生レストラン」、「料理コンテスト」等で地域の食材の素晴らしさを実感し、地域の食文化を大切にしながらメニューの作成に取り組み、職業人の視点として様々なこと学び、進路に生かせるよう取り組んでいる。 福祉科は「ふくしかカフェ～お結び～」を4回開催し、地域の福祉の課題と向き合い、課題解決に取組み、地域に貢献する態度を育成している。 看護科は昨年度から高校生を対象とした「地域医療体験セミナー」の県内病院見学を実施し、地域の基幹病院の必要性やはたらきについて学んでいる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 県立高校として県内就職率7割を超えるよう、低学年から地域の病院を知る機会を模索していく(専攻科県内就職内定率55%)。 | |
| 3 | ⑦ 規範意識を高めると共に、思いやりの心を育む道徳教育と保健・健康教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会などの立哨指導に取り組んできた。学校生活アンケートでも相手にとって気持ちのよい挨拶をしている、と答える生徒の割合は高校98.3%専攻科100%。 「スマートフォンを正しく使用する」ことを生徒会の取組みとしてきた。自己点検を行い、正しく使用していると回答した生徒の割合は、高校98.1%専攻科100%。 各学年で外部講師を活用して保健健康教育をすすめてきた。引き続きSCや外部講師等の協力を得て保健健康教育を深めていく。 視力治療率39.2%、う歯治療率43%(12月末時点)という結果だが見処置者に、工夫した声かけを行っていく。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動等で呼びかけを行い、引き続き思いやりの心をもって場に応じた適切な挨拶いと生徒が答えられるよう取り組んでいく。 SNS関係のトラブルは数件起きており、利用の仕方について、継続して指導をおこなって行く必要がある。 個別指導や担任・部活動顧問等と連携、視力再検査の実施等、継続して指導する。 | 人とのつき合い方やSNSの使い方など、親としてできることをやっていきたい。 保護者の回答率が60%なのは、親子のコミュニケーションがあまりよくとられてないように思われる。 実体験や実際の声を大切にPRするとよいのではないかと。 |
| | ⑧ 自律と協働を大切に学校の行事や生徒会活動、部活動等の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事・生徒会行事・部活動が充実した活動になっていると感じている、高校92.1%専攻科:96.7%と活動に充実感を得られている生徒が多い。 今年度から部活動が任意加入となったが7割以上の生徒が部活動に加入し充実した活動を行っている。引き続き部活動の加入を推奨していく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 充実した高校生活を送れるように、部活動加入の推奨のための呼びかけを行っていく。 生徒が成就感をもって主体的に生徒会活動や委員会活動ができるよう取り組んでいく。 | |
| | ⑨ 細やかな面談・相談活動と個に応じた組織的な支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の悩みや不安を受け止める面談活動の充実を図ることに取組んできた。学校の先生は悩みや相談に親身になって応じてくれると回答した生徒は専攻科90.1%高校89.1%であった。 生徒の悩みや不安を受け止める面談活動の充実をはかるためにSCや養護教諭、MH委員会、SC、学科、保護者とのより一層の連携が必要である。(SC実施回数21回) いじめ防止基本方針の定着をはかるためにPTA総会資料への掲載。 | B | <ul style="list-style-type: none"> SNS関係のトラブルは数件起きており、利用の仕方について、継続して指導をおこなって行く必要がある。 迅速な中でも、連絡・相談をしっかりと行って対応に当たるためにもこまめにケース会議を実施し情報共有を行っていく。 | |
| 4 | ⑩ いのち守り、いのちをつなぐ安全教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 保健委員会で全校生徒対象のAED講習会を行った。実演を交えてわかりやすく伝えられるように工夫し安全教育に取組んでいる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 講演や訓練の計画的実施と内容を検証し次年度の取組みに生かす。 | |
| | ⑪ 感染症防止への意識高揚に基づく健康観察の徹底と行動変容の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が安全に学校生活を送ることができるよう保健委員会を中心に、またさくら連絡網を利用して情報発信につとめている。また全校生徒が毎日健康観察をし、教育活動を安心して行えるよう取り組んでいる。 不審者想定訓練を全校生徒及び全職員対象で警察の方を講師としてオンラインで実施した(高校・専攻科7月23日)。全校生に引き続きわかりやすく伝えられるよう進め方を検討していく。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 定期的にチェックリストを活用しながら感染予防の呼びかけを進める。 危機感をもち訓練に参加できるように設定を工夫して訓練を実施する。 | |
| | ⑫ 防災及び情報セキュリティに関する有効な危機管理体制の実現 | <ul style="list-style-type: none"> 各教室に避難経路図を掲示し、避難経路を周知を行った。 2回の避難訓練の実施、6月3日防災避難訓練<地震・火災>(全校対象)、10月7日清心寮避難訓練(寮生対象)実施。 情報教育の啓発活動(チラシ掲示・全校集会等)を実施。 トイレや教室等の環境点検を強化し安心できる学校環境に取り組んでいる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 各防災組織の担当教諭及び舎監が各担当の生徒と連絡を密に実施する。 安全教育に関する訓練が受けられるように、複数の教員で確認を行う。 | |
| 5 | ⑬ 持続可能な地域連携活動やボランティア活動による生涯学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> お茶のみサロンを10月(本校2会場)で実施、マンドリン部も協力し多くの高齢者などにぎやかに楽しく交流できた。 食料は高齢者レトルト食品の提供、福祉科はフレイ講話、看護科はハンドマッサージを実施し、3学科協力して介護者励会を成功させた。 看護クラブ活動で幼稚園や高齢者施設のボランティアを継続的に行っている。 家庭クラブは山辺駅周辺の清掃活動を定期的実施し地域に貢献している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した学習の計画や計画的なボランティア活動の推進に取り組んでいく。 引き続き山辺町と連携し生徒の主体的な学びが深まるように工夫した地域連携事業を実施していく。 | |
| | ⑭ 家庭や地域の理解・協力得る積極的かつ適切な情報の発信と公開の実現 | <ul style="list-style-type: none"> 更新頻度は不定期ではあるが、タイムリーな情報として、学科を中心に授業の取り組み等をHPに載せ、毎月1回以上更新することができた。(12月末70件) 3年目となる学校魅力化の取り組みも、新聞をはじめマスコミやSNSを利用し、情報を発信している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> HPやインスタグラムを利用し、継続的に学科の魅力やイベントごとに発信していく。 本校の魅力をより一層発信できるように各科・学年、課で継続して取組んでいく。 | ボランティア活動を学びに生かす工夫をますます大切にして欲しい。 |
| | ⑮ PTA、地域、関係機関との連携、協働体制の実現 | <ul style="list-style-type: none"> PTA役員会やPTA総会(出席率高校66%、専攻科31%)を開催。様々なPTA活動を役員の方々に協力いただき、スムーズに行うことができた。参加率が高まるように開始時間や保護者への連絡方法などを模索している。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 来年度についてもさくら連絡網等を有効活用し、PTA活動を発信・充実させていく。 | |